anti-aging・genome!
アンチエイジング・ゲノム!

Class 一般医向け ★★★

Vol. 4 消費者遺伝子解析検査：Direct To Consumer（DTC）

1984年　東京大学医学部卒業
1990年　東京大学病院第一内科
2000年　東海大学医学部附属病院循環器内科准教授
2007年　東京ミッドタウンクリニック院長，先端医療研究所所長
総合内科専門医，循環器専門医，人間ドック健診専門医，臨床遺伝専門医
日本人間ドック学会遺伝学的検査検討委員会委員長

田口　淳一 Junichi Taguchi
東京ミッドタウンクリニック院長
✉ j-taguchi@tokyomidtown-mc.jp

遺伝子検査と遺伝学的検査

2011年２月の日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」によると，これまで一般的に用いられてきた「遺伝子検査」の用語を次のように定義した。１）病原体遺伝子検査，２）ヒト体細胞遺伝子検査，３）ヒト遺伝学的検査：単一遺伝子疾患，多因子疾患，薬物などの効果・副作用・代謝，個人識別に関わる遺伝学的検査など，ゲノムおよびミトコンドリア内の原則的に生涯変化しない，その個体が生来的に保有する遺伝学的情報（生殖細胞系列の遺伝子解析より明らかにされる情報）を明らかにする検査，１）～３）を総称して「遺伝子関連検査」とする。Direct To Consumer（DTC）検査は，本来は遺伝学的検査であるが，専門家のなかには医療ではないので区別する考えをもつ意見があり，通称の遺伝子検査と述べる場合もある。本稿ではそれに準じる。

質問「直接ウェブで申し込める遺伝子検査は便利なのに，何が問題なのですか？」

よく聞かれる質問として次のようなものがある。「テレビで見たのですが，がんや心筋梗塞，アルツハイマー病までカバーしている遺伝子検査が安く買えるみたいですね」，「子どもの才能がわかるのですか？」，「友人のためにプレゼントをしようと考えています」，「健康保険組合が遺伝子検査を給付してくれると良いと思います」。

その答えに関して，日本医師会の「かかりつけ医として知っておきたい遺伝子検査，遺伝学的検査 Q＆A2016」では，「医師の診断を伴わないDTC遺伝子検査から得られる結果は，あくまで“確率の情報”です。また，検査の分析的妥当性（精度の高さ）や臨床的妥当性（結果の意味付け・解釈）は検査会社によって大きく異なります」とあり，東京大学医科学研究所・公共政策研究分野 武藤香織教授の「遺伝子検査を買おうかどうか迷っている方へのチェックリスト」[1] では次の10項目の注意点を挙げている。

①診断ではありません，②会社によって答えはバラバラです，③研究が進めば，確率は変わります，④予想外の気持ちになるかもしれません，⑤知らないでいる権利の存在を知りましょう，⑥自分で知ろうと決めたなら，医師に頼るのはやめましょう（一般の診療所や病院は検査のアフターサービスを求める場所ではありません），⑦血縁者と共有している情報を大切に扱いましょう，⑧強制検査・無断検査はダメ，プレゼントにも不向きです，⑨あなたのDNAやゲノムのデータの行方に関心をもちましょう，⑩子どもには，大人になって自分で選べる権利を残しましょう。

最大のDTC遺伝子検査会社，23andMe社の挫折と再起

23andMe社は，Googleが出資し起

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.